

平成26年度 十文字元気プロジェクト採択一覧

No.	プロジェクト名称	代表者	構成員	担当教員	プロジェクト概要
1	ゆずプロジェクト	児童教育学科 12JB086 若林 沙理	8名	児童教育学科 狩野教授	小川町腰越地区腰越において、耕作放棄地や住宅の庭に大量に放置されている”ゆず”を活用した地域活性化のための活動を行う。”ゆずプロジェクト”を通して、地域にある価値ある素材の発見、学生の主体的な行動力・社会性・コミュニケーション能力の育成などが期待できる。なお、平成22～25年度まで「埼玉県ふるさと支援隊」として埼玉県から補助金が支援されていたが、今年度は補助期間の4年間で終了した。
2	サロン・ド・アフターファイブ Jumonji	メディアコミュニケーション学科 12JG061 原田 紗帆	11名	メディアコミュニケーション学科 棚谷准教授	音楽や映像の発表や制作の場を設けることにより、学生の創造的で自主的な活動を促す。この企画の実行により、新たなコミュニティを形成することができるとともに、制作活動を行うことで楽しみながら学生の創造力・技術力を身につけ、発表の場を設けることで責任感と制作意欲・クオリティの向上が期待できる。なお、発表会は、本学の音響設備のある場所（多目的ホール、8号館1階、スタジオなど）を予定している。
3	太田部が元気になる支援プロジェクト	人間福祉学科 12JE058 矢野 涼香	11名	人間福祉学科 野島准教授	秩父市太田部地区の限界集落の支援活動として、一人暮らしの高齢者宅訪問、地区のお祭りへの参加、太鼓の披露など、地域貢献活動を行う。このプロジェクトを通して、太田部地区の住民との交流や高齢者の方々の活気付けなどができるとともに、本学の知名度向上が期待できる。なお、平成22～25年度まで「埼玉県ふるさと支援隊」として埼玉県から補助金が支援されていたが、今年度は補助期間の4年間で終了した。
4	日本の大自然と世界遺産を広めよう	児童教育学科 12JB045 佐田 和香奈	3名	児童教育学科 増田副学長	日本には17の世界遺産があるが、認知度はあまり高くないように感じる。そこで、日本の最北端の自然遺産のある北海道を実際に訪れ、自然の素晴らしさを絵本という形に残し、日本の世界遺産、大自然の美しさを子ども達に伝えたい。この活動により、自分たちが将来教員になった際に必要な「自然との関わり、自然を大切にする心」を養うとともに、本学の学生、幼稚園児、小学生にも日本の魅力を伝えることが期待できる。
5	小川町七夕 & ユネスコ十文字プロジェクト	メディアコミュニケーション学科 12JG021 奥山 海憂	30名	メディアコミュニケーション学科 松永教授	7月下旬開催の小川町七夕まつりにおいて、十文字生が提案するイベント企画の準備・運営を行う。七夕まつりは平成23年からメディコミの学生を中心に参加し、特に小川町商工会との信頼関係は深まっている。今年度は他学科の学生や留学生も参加し、国際交流の場としても位置付けている。この活動により、本学のアピールだけでなく、様々な体験を通じた成長と十文字生としての誇りや帰属意識を持てることが期待できる。